

## スマートテレビ時代における字幕等の在り方に関する検討会

### CM字幕ワーキンググループ（第2回）議事要旨

#### 1. 日時

平成26年3月6日（木）15時00分～16時50分

#### 2. 場所

総務省10階 総務省第1会議室

#### 3. 出席者

##### （1）構成員

音主査、寺島主査代理、木村構成員、近藤構成員、澤田構成員、島田構成員、菅原構成員、高橋構成員、林構成員、藤川構成員

##### （2）プレゼンテーション

上川内所長（パナソニック株式会社アドメディアセンター）、佐多部長（株式会社電通）、釜下課長（株式会社デジタルエッグ）、壁谷主査（日本民間放送連盟）

##### （3）オブザーバー

新垣主査（内閣府政策統括官（共生社会政策担当）付参事官（障害者施策担当）付）、仲課長補佐（経済産業省商務情報政策局文化情報関連産業課）

##### （4）総務省

福岡情報流通行政局長、南大臣官房審議官、長塩地上放送課長、徳光地域メディア室長、梶田地上放送課課長補佐

#### 4. 議事要旨

##### （1）事務局説明

事務局より、資料に基づき、第1回会合の議論に関連する事項について説明が行われた。

##### （2）プレゼンテーション

藤川構成員から「字幕付きCMの普及啓発」について、上川内所長から「字幕付きCMの取り組みと今後について」について、佐多部長から「CC字幕付きTVCMトライアル制作レポート」について、釜下課長から「字幕付きCMの制作について」について、壁谷主査から「字幕付きCMトライアルの成果と課題」について、それぞれプレゼンテーションが行われた。

(3) 意見交換（構成員等の主な発言は以下のとおり）

○寺島主査代理

- ・CM字幕の取組はかなり進んできた印象。CM字幕の共通の規格をつくることや、ロードマップやスケジュールを示す必要がある。放送局のシステムの改修、業務フローの確立や人材養成がいつ頃までにできるか、費用負担など取引ルール of 解決策、補助金は必要か、CM字幕についてどう周知するか、などをまとめていてはどうか。

○菅原構成員

- ・システム改修には多大な費用が必要となるため、各放送局の体力に合わせて取り組まざるを得ないと思う。民放連として、各社の設備対応状況に関するアンケート調査を行い、各局の対応状況、更新時期などについて把握したい。各社の設備は一般に10年か15年くらいのスパンで更新しており、日本テレビの系列の場合は2020年を超えるあたりまでかかる見込みだ。設備の更新が完了するまでは人的な手当で対応せざるを得ない。
- ・CM字幕の認知を高めるためにはトライアルの数を増やすしかないが、放送局のマンパワーがどこまで対応できるかという課題がある。また、字幕制作会社を増やす必要がある。
- ・CMは放送局の収入源でありビジネスの根幹であるため、確実に放送することが大前提となる。取引に関するルールなどについては、三者で歩み寄って話し合いをしたい。

○佐多部長

- ・制作会社の問題は早めに対応したい。CM字幕制作のセミナーで、番組の字幕を制作している放送局の子会社から、協力を前向きに考えたい旨の発言があり心強い。現場はCM字幕の広がりを持っている。

○澤田構成員

- ・CM字幕の例を見て、表現の仕方で伝わり方が違うことがよくわかった。ノウハウやオリジナルのやり方を共有し、表現のルールができると、より伝わりやすくなるのではないかと。また、山手線のトレインビジョンのようにオープンキャプションで文字を入れたCMも排除せず、両方考えてほしい。

○近藤構成員

- ・パナソニックのように、シニアにわかってほしいからCMに字幕を付けるというのうれしい。高齢者で難聴の75歳以上の人を中心にした字幕についての調査はないか。

○寺島主査代理

- ・聴覚障害者の半分以上が65歳以上なので、既存の調査で高齢者の意見は反映されているのではないか。ただし、軽い難聴者についての調査はないのではないか。WHOは世界の人口の5%、3億6千万人に聴覚障害があると報告しており、今後、字幕は世界的に必要になり、ビジネスチャンスになるのではないか。

○音主査

- ・75歳以上の高齢者を対象とした字幕の研究は少ないのではないか。寺島先生から障害者の意見を広く聞くべきというご指摘があったが、近藤先生のご意見とも重なる。

○高橋構成員

- ・CM字幕への取組は、企業の商品構成と考え方で変わるので、広告主の数ではなく、色々な種類のCMが増えて、どのような番組をどのような人が見ているかという傾向がつかめれば、リアリティーがあり取組が進むのではないか。身近な企業、中高年向け、食料や飲料などにCM字幕が広がれば、反応が顕著になるのではないか。トライアルを通じて、効果やカテゴリーなどの実態のデータがそろふことが肝要。

○近藤構成員

- ・京都でシニア向けイベントがあり、字幕付きのCMに取り組む企業について聞いたところ、とてもすばらしいという反応だった。関係者は張り切って取り組んでほしい。

○寺島主査代理

- ・障害当事者に参加してもらい、意見を最大限聞いてほしい。字幕がなくてもCMの内容が理解できるものにできたり、もっとこんなことが必要という意見をくみ上げたりできるのではないか。

○音主査

- ・取引ルールについては、ビジネスの話なので3団体で話し合ってもらうのがよいのではないか。

- ・親会に検討が進んだところを報告できるようご配慮願いたい。放送局のシステムの状況についてはロードマップの作成に必要なので、4月下旬メドの第4回WGで、各社アンケート調査の結果や方向性を示してほしい。

○菅原構成員

- ・放送局のシステムの状況の調査結果は5月の連休明けにはまとまると思う。

○音主査

- ・事務局においては、資料2－1「課題と対応の方向性」に本日の議論を加味して、次回第3回WGに提出してください。